

# 全日本18 マラナ・タに 向けての準備

あなたにいま、  
できることをみつけよう



全国100カ所以上で収穫のために行う

全教会参加の連続講演会

## 【ビジョン2020】

にせんにじゅう

2020年までに教会員2万人、礼拝出席者2万人という日本教団の数値目標。



ぜんにほんえいていーん

## 【全日本18 マラナ・タ】

2018年5月全国100か所以上で収穫のために行う10日間の連続講演会。私たちが全員参加伝道をして、おおぜいの求道者を見つける必要があります。



をすることができ、一人でも多くの人たちが一緒にキリストのご再臨を迎えることができます。日本のアドベンチスト教会は、このために過去120年間さまざまな活動を展開してきました。全国のいたるところに教会を建て、さまざまな関連機関を作り、地域の

全日本18 マラナ・タに向けて、各教会でさまざまな取り組みを計画し始めていくことと思います。教会の置かれている状況によって、これからの具体的な取り組みの仕方は多少違うかもしれませんが、目標としているところは、一人でも多くの人たちが一緒にキリストのご再臨を迎えることができます。

人々に奉仕し、人々との関係作りをしてきました。しかし、私たちは時々立ち止まって、これまで行ってきたことを振り返ってみる必要があります。キリストのご再臨の準備をするという目標は変わりませんが、時代が変わっていく中で、人々の生活や生き方は変わってきた部分がたくさんあります。私たちの伝道活動は、人々に向けて展開されるものですので、人々のことをよく知り、理解する必要があります。現代の人々に近づくために、新しいことに取り組む必要もあるかもしれません、時代が変わっても、変わらずに忠実に続けていくことは何であるかを見極めることも必要です。

全日本18 マラナ・タの準備のための月ごとの逆算予定表を掲載いたします。各教会でこの表を参考に、準備に取り組んでいただければと思います。

1月30日から2月2日まで行われた牧師会では、全日本18 マラナ・タを前に、もう一度日本伝道について考える時を持ちました。現代の日本人の多くは都市に住んでいます。また、日本人の多くは、仏教的な考え方の影響を受けていると考えられます。こうしたことから、都市に住む人々への伝道と、

## 種まき→成長→収穫 (バプテスマの決心をうながす)

聖書(マルコによる福音書4章26～29節)には、伝道の働きは、種まき→成長→収穫の3段階だと書かれています。

収穫は、2018年5月に行う収穫の講演会(全日本18 マラナ・タ)です。成長は、人々に日々働きかけてくださる聖霊がしてくださると約束されています。そのために、教会やグループ、個人で、講演会に向けて、種まきをしましょう。種まきの方法については、21ページも参考にしてください。

仏教的な背景を持つ人々への伝道について、世界総会から比較的若い2名の講師を招いて話をさせていただきます。全日本18 マラナ・タの準備を始めるにあたって参考になることがあると思いますので、講義内容の要点も、ご報告させていただきます。

(伝道局長 山地宏)

# 全日本18マラナ・タ準備のための

## 逆算予定表

来月号のアドベンチスト・ライフ誌から毎月、各準備について具体的な方法やアドバイス、アイデアなどをご紹介します予定です。あわせて参考にしてください。

この表を参考にし、それぞれの教会で準備を進めていきましょう。



各種祈りについての説明や、つながりを持つためのヒントについては、TMI手帳に掲載されています。

月	教会が行う準備	グループ	個人	教団・教区
2017年5月	参加の決定 求道者と長欠者名簿整理		777の祈り 234の祈り 執り成しの祈り 他の人とつながりを持つ など	↑フィールド・スクール開講(3月~10月)モデル教会の講演会の準備講座
6月	祈り(リバイバル集会)			フィレンツェ・ミッション・トリップ 777の断食祈禱
7月	伝道する力を向上させるための勉強会 長欠者回復強調日(7月1日)	祈りの行進(ブレイヤー・ウォーキング) 各種小グループ活動 ヒスハンズ(近隣訪問、長欠者訪問) など		
8月	アウトリーチ(対地域活動)			
9月	伝道する力を向上させるための勉強会 求道者名簿再確認			
10月	アウトリーチ 長欠者招待日(10月7日)			モデル教会の連続講演会

連続講演会の目的は、聖書の主要な項目すべてを伝え、出席者にキリストの教えを受け入れ、バプテスマを通して残りの民、教会員となるよう勧めることです。全国すべての教会が参加するよう招待されていますが、参加は強制ではなく、各教会の自由選択によるものです。

月	教会が行う準備	グループ	個人	教団・教区
11月	祈り(リバイバル集会) 求道者名簿見直し	祈りの行進(ブレイヤー・ウォーキング) 各種小グループ活動 ヒスハンズ(近隣訪問、長欠者訪問) など	777の祈り 234の祈り 執り成しの祈り 他の人とつながりを持つ など	秋の祈禱週 収穫の講演会のポスター&チラシ作成 10日間の祈り 全国牧師会祈りのセミナー
12月	アウトリーチ クリスマス行事など			
2018年1月	祈り(リバイバル集会)			
2月	伝道する力を向上させるための勉強会 リテンション(教会定着率) リクラメーション(長欠者回復)			
3月	長欠者、求道者名簿最終版作成 チラシ配布、発送開始			
40日間の祈り開始(3/27~5/5)				
4月				
5月	全日本18マラナ・タ 収穫の講演会(10日間)			
6月	フォローアップ (その後の継続的関わり)		バプテスマを受けた人が、教会に定着するように、リテンションの勉強会で習ったことを実践しましょう!	

(注)上記の逆算予定表に記載されている項目の名称や流れが、すでに教区や教会で配られているものと異なる場合があります。ご了承ください。

ビジョン2020につづく

## なぜ連続伝道講演会を行うの？

何日も続く連続伝道講演会が、ほんとうに、この21世紀の人々に通用する伝道方法なのでしょうか。意外に思われるかもしれませんが、研究によると、バプテスマに導くために最も効果的な伝道方法だとされています。

もちろん、個人的な関係伝道、1対1の聖書研究なども非常に大事な伝道方法です。個人的な伝道を通して、聖霊が未信者と教会員の両方に働きかけます。しかし、バプテスマという決断をするためには、完全にキリストに献身する覚悟が必要です。

世界中のアドベンチスト教会を見渡しますと、最もバプテスマが多いのは、やはり連続伝道講演会による伝道なのです。理由は、神のみ言葉の力にあります。人々が、

## モデル教会(実験教会)とフィールドスクール

10日間も続く連続講演会を、多くの日本の教会では、ここ数十年経験していません。2018年の全日本18マラナ・タの前に、いくつかの教会で実験的にこれを経験しておけば、2018年の講演会

より多く、神のみ言葉に触れることによって、キリストに献身し、三天使のメッセージを受け入れる可能性も、より大きくなります。1日や2日だけでは短すぎて、バプテスマの決断までにはいきません。しかし、何か月にもわたって実行する伝道計画と、何日も続く聖書を語る連続伝道講演会が連動するとき、すばらしい成功にあずかることができます。

個人的な関係伝道も必要不可欠です。しかし、個人的なつながりを持つ人々を連続講演会に誘い、神のみ言葉に触れさせることも必要不可欠なのです。神のみ言葉に触れさせるのが、新約聖書時代の伝道方法でした。神のみ言葉の力がすべての偏見、ためらい、不信感、恐れを乗り越えて神に完全に献身する勇気を与えるからです。〔講演会通信〕2017年1月号より要約

の参考になるのではないかという意見がありました。そこで2017年に十数か所の教会が、連続講演会に挑戦します。この連続講演会は、北アジア太平洋支部牧師会長のロン・クルー

ゼ先生によるフィールドスクール(天沼教会で開催)と連動して行われます。2017年にモデル教会(実験教会)として連続講演会を行う教会は、このフィールドスクールに参加します。ここでは、10月に予定されている収穫の講演会の準備のための伝道方法や決心への導き方などを半年以上かけて学びながら実践していきます。遠方の教会でモデル教会になっている教会は、インターネット放送でフィールドスクールの研修セミナーに参加することになっています。3月10日と11日には1回目の研修セミナーが行われ、友情伝道と

執り成しの祈りについての学びと実践が行われました。天沼教会のホームページ(天沼2017大都市講演会のページ)で、そのいくつかを見ることが出来ます。<https://sda-amannunajindo.com>

このフィールドスクールの研修セミナーは、全日本18マラナ・タに向けての準備として全国の教会で活用することができます。今後、10月までに隔月ぐらいの頻度で研修セミナーが行われますので、ご活用ください。詳しい日程や時間などは、教団のホームページで案内する予定です。(山地宏)

教会員全員参加の企画による  
収穫講演会  
「全日本18 マラナ・タ」のために  
わたしは、  
わたしの教会は何を準備したらいいの？



「全日本18 マラナ・タ」については、アドベンチスト・ライフ誌12月号 TOPIC、1月号特集もあわせてご覧ください。

都市伝道のポイント  
世界総会の都市伝道を担当するダグ・ベン先生によるセミナーは、世界中で一番多くの人が住んでいると言われている東京圏(神奈川県、埼玉県、千葉県を含む)、また日本において、どのような宣教ができるのかを考える時間となりました。先生の経験と知識に基づく効果的な方法を学ぶという内容ではなく、日本の牧師たちと一緒に考えながら新しいものを生み出したいという先生の気持ちが前面に出たセミナーでした。

## 全国牧師会の講義から

1901年に開かれた第34回世界総会において、「都市伝道を成功に導くためには、説教だけで働きが成し遂げられたと思わないような目を覚ましている人がいないればならない」と訴えかけられたことが紹介され、教会がメッセージを語るだけでなく、地域に住む人々に仕え、つながりを持ち、関係を深めていくことがアドベンチストの使命であり、そのためにはありとあらゆる方法でチャレンジャーになることの大切さを確認させられました。

グループに分かれてのディスカ

## 祈り(リバイバル集会)とは？

宣教第一の教会になるために、教会全体で特別な祈りのときをもちましょう。土曜日から土曜日、8日間が推奨されています。そのために、春や秋の祈禱週の読み物や、『真のリバイバル』(エレン・ホワイト著)を利用することをおすすめします。ご注文はABCまで。



## 祈る、学ぶ、交わる、伝える

収穫の講演会は、教会で行ってきた種まきの結果(さまざまなアウトリーチや定期的な小グループなどを通して聖書に興味を持った人たち)を刈り取る時です。全日本18マラナ・タに向けてはもちろん、ビジョン2020を目指して、祈り、アウトリーチ、勉強会を継続することが望まれます。

## プレ講演会とは？

アウトリーチの一つ。健康、音楽、創造論と進化論、人生問題などの講演会です。教会に接点のない方々との信頼を築くために行います。前ページの逆算予定表には入れませんでした。収穫の講演会の前年と、2、3週間前に行い、出席者の中で聖書に興味を持った人を収穫の講演会につなげていくのが望ましいとされています。

## 伝道する力を向上させるための勉強会とは？

収穫の講演会のためには、教会員の伝道スキルアップも求められます。教会員自身の意識改革のためにも、各教会で勉強会を開きましょう。どんな勉強会をひらいたらよいか、具体的なアイデアについては、アドベンチスト・ライフ誌や、伝道局のホームページで随時紹介する予定です。

## アウトリーチとは？

2017年7月から2018年3月の間に、数回のアウトリーチ(対地域活動)を行うことが奨励されています。

これは、近隣の方々とつながりをつくるために行われるイベントのことです。たとえば、VBS、健康セミナー、食料調理講習会、クリスマス行事、音楽コンサート、子ども招待日、敬老会、介護セミナー、ビクターズデーなどを企画することができます。内容や回数は、教会のサイズなどによって、判断してもよいでしょう。

このアウトリーチのためには、ヒズハンズ、ポスティングなどで近隣の方々に案内することが必要となります。またイベントを行った後、フォローアップとしての定期的な小グループやサークル活動をぜひ企画してください。

近隣の人々と交わりの機会をつくり、収穫の講演会に出席したいと思ってもらえるような信頼関係を作りましょう。



ツシヨンの時間も多く持たれ、各教会の地域社会に対する取り組みの情報交換をすることもできました。子ども食堂、バザー、ホームレス支援活動、デイサービス、保育園、音楽プログラム、語学教室、料理教室など、多くの教会が地域に対してさまざまな取り組みをしていることがわかりました。

セミナー全体を通し、今までにはなかったような斬新で創造的な方法で都市の人々とつながることが勧められていた一方で、キリストがどのように都市の人々に福音を宣べ伝えていたのかということも強調されていました。

人々と交わり、憐れみの心を持って人々に仕え、人々から信頼されたキリストが語った福音だったからこそ、多くの人々の心を変える力があつたのではないのでしょうか。神の憐れみが必要としていた多くの人がないがしろにされてきた当時においては、キリストの方法もまた斬新で創造的な方法だったのかも知れません。

人々とつながりを持ち、地域に仕えるためには、教会にとつては大きな経済的な負担を強いられることとなります。しかし、「富を築く力をあなたに与えられたのは主」（申命記8章18節）であることから、教会が主のみ心になつた

方法で地域の必要に応じていくことができれば、その働きはもはや教会だけのものにとどまらず、主は教会員以外にも支援を申し出る仲間を与えてくださることが、確信をもって語られました。（青木泰樹）

### 仏教的背景を持つ人々の世界観を理解する

ラオスとタイで仏教徒に宣教師として働いた経験のあるグレゴリー・ウィットセツト先生が講義してくださいました。

「宣教——日本文化の壁」という講義では、世界人口に対するアドベンチストの比率393対1と、仏教国の人口に対するアドベンチストの比率4810対1は約10倍の違いがあると、挑戦の大きさが示されました。

さらに、日本文化を1本の木にとえ、根の部分が神道、幹と枝が儒教、花や葉が仏教というように、それぞれ違う考え方・信仰が一つとなつて、ひとりの日本人の一部となつているという説明をされました。

この日本人理解はとても印象的でした。このような宗教観を持つ日本人にキリスト教を宣教するときには、世界観の衝突が起こることを、私たちがよく知っているヨ

ハネによる福音書3章16節を日本人が聞くときのように聞こえるのかを例に説明してくださいました。例えば、「神」といわれても、唯一神というイメージではなく、大勢いる神々のうちの一人と誤解する可能性があります。また人が死んで神としてまつられることもありますし、先祖や自分自身は死んで仏さまになると考える人もいますので、神という言葉もいろいろな受け止め方をされる可能性があるということです。「独り子をお与えになつた」ということも、「子どもを犠牲にするなんて！」とか、「野蛮！」「血の犠牲！」と思われてしまう可能性もあるということでした。クリスチャンが感動する聖句でも、仏教的な背景を持つ人が読むと、むしろマイナスの印象を持つことがあるのだということがわかりました。

文化の壁を越えて宣教することの難しさを、キリスト教文化をサッカー、仏教文化をゴルフにたとえて説明してくださいました。サッカーは二つのチームが戦い、多くゴールして得点が多いチームが勝利、ゴルフは個人戦で、少ないスコアが勝利します。サッカーの場合、勝利チームに属していれば、勝者になれます。サッカーがあらわすキリスト教は、善と悪の斗争闘でどちらのチームに属するか

の選択、一方ゴルフは、一番良い道を選びながら、自分で行く仏教をあらわしています。日本文化の壁を越えて宣教するというのは、ゴルフアーをサッカー選手にするようなもので、その違いを理解し、相手を理解し、わかる方法で教え伝えることを学べました。

このように日本宣教の壁は大きく感じられますが、キリストの方法と模範に従い、宣教は神の働きなので祈り、神の方法に従い、取り組むことの大切さを再確認することができました。（小林勝）

「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間として歩まれた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについて来なさい』とご命令になった」。

『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』128、129ページ